

# RSA® ARCHER® BUSINESS RESILIENCY

## ソリューション概要

### はじめに

組織は、製品およびサービス、プロセス、テクノロジー、サードパーティ、従業員などの要素が複雑に絡み合う構造になりつつあります。要素ごとに個別のレベルの複雑さが追加され、そのたびにビジネスプロセス、重要なITインフラストラクチャ、増え続けるサードパーティ関係の脆弱性と複雑さが増大します。加えて、ビジネスは常に進化しています。新たに作り出される関係性と新たに提供されるサービスをビジネスとITインフラストラクチャによりサポートしていかなければなりません。この変化し続ける環境体系は、甚大な自然災害、風評危機、サイバー攻撃などによるシステム停止に直面したときの回復力を維持する機能に影響を与えます。さらに、このような複雑さにより、リスクはどこに存在するか、リスクはどこから現れるか、リスクはどの程度の速さで組織の回復力に影響を与えるかを明確に認識することがより困難になります。

今後5年間に、80%の企業は株価が20~30%下落するという危機に直面する。

Oxford Metrica  
「Reputation Review 2012」

重要なビジネス機能とその基盤となるインフラストラクチャは、システム停止を持ちこたえ、障害が発生した場合には迅速に復旧または復元できるように設計する必要があります。BCM(ビジネス継続性)/IT DR(災害復旧)プランは、重要なビジネス機能を継続的に移動させたり、危機が発生した場合でも許容可能な時間内に移動状態にまで復旧できるようにするのに大いに役立ちます。

しかし、これらの複雑なプロセス、システム、サプライヤーなどすべての要素に対応するプランは無数にあり、その管理は一筋縄ではいきません。BC(ビジネス継続性管理)チームは通常、複数のツールや、カスタマイズとアップグレードに大きなコストがかかる柔軟性のないシステムに、BC/DRプランの静的なドキュメントを取り込んでいます。また、プランの作成、承認、維持、テストに、整合性のないその場しのぎのプロセスが使用されることがよくあります。BCチーム、DRチーム、危機管理チームの間での調整が不十分であるために、組織の通常業務の継続性または回復性に影響を与える可能性があるIT/ビジネスリスクが新たに発生しつつあってもほとんど把握できない、ということも少なくありません。その結果、継続性/復旧プランが整備されていて意図したとおりに機能することを経営幹部に証明および報告することが困難になっています。

### 復旧から回復力へ、意識の変革

復旧とは、ビジネスが用意しているプランが、望ましくないことが起こった後に必要なサービスを復元するためのリアクティブなものであることを意味します。これとは対照的に、回復力向上プログラムは、組織の継続性に対する「システムリスク」に対処し、それを軽減することを目的としています。高い回復力を実現するには、悪条件に自然に適応し、中間軌道修正を行い、システム停止の悪影響を回避するプロセスを構築する必要があります。

ビジネス回復力向上プログラムが適切なものであれば、ビジネスインパクト分析、ビジネス継続性プランニング、IT災害復旧プランニング、危機プランニング、インシデント対応アクティビティが、ビジネス全体の目標と戦略に合致します。

組織では、ビジネス継続性チームと災害復旧チームが密接に連携して、回復力の高い組織を作り出し、どのようなシステム停止が発生しても組織の風評、財務、法的地位、従業員、お客様に与える影響を最小限に抑えることが、これまで以上に求められています。経営幹部は、継続性リスクについてのより正しい認識、予算が必要な要件に関するインサイト、危機が発生した場合にプランが実施されるという一定レベルの確信を必要としています。

回復力の高い企業は、予期しないイベントの影響を、自社のブランドを損なうことなく吸収できる。

「The State of Business Continuity 2015: People and Communication」、Forrester、Stephanie Balaouras

経営陣はビジネス継続性管理プログラムのオーナーシップを持ち、対前年比で必要な投資を約束しなければならない。主要パフォーマンス指標 (KPI) と利用可能な主要リスク指標 (KRI) とを結びつけることは、BCM リーダーが部門長にビジネスの回復力の価値を伝えるための有効な手段の 1 つである。

「Use KPI and KRI Mapping to Make the Business Case for Business Resilience」  
2015 年 9 月  
Gartner、Roberta J. Witty、L Akshay

## RSA Archerビジネス レジリエンスのメリット

RSA® Archer®ビジネス レジリエンスは、進行中の業務を危機的状況で保護するための迅速な対応を可能にする、自動化されたアプローチを提供します。RSA Archerがあれば、継続性チームと復旧チームの効率性を変革し、最も重要なビジネス分野に対処し、事業全体にわたって各チームを連携させて組織の回復力目標を達成できます。

### 継続性/復旧プランニングへのビジネス コンテキストの採用

ビジネスにとって最も重要なものを把握するにはどうすればよいのでしょうか。回復力を確保するという点で最も重要なビジネス プロセスはどれでしょうか。上流および下流にはどのような依存関係、システム、プロセスが存在するのでしょうか。チームはそれらについてどのようなプランを立てればよいのでしょうか。これらの重要な質問には、ビジネスの重要度とそれに対応する復旧の優先事項に関する認識を踏まえて回答する必要があります。RSA Archerは、一元化されたビジネス プロセスと資産リポジトリを、基盤となるIT インフラストラクチャと関連づけて提供します。これにより経営陣は、組織をカタログ化して把握し、各プロセスとその基盤となるテクノロジーおよびインフラストラクチャの重要度を評価し、その重要度に基づいてBC/DRプランニング プロセスに優先順位を付けることによって、復旧プランを整備することができるようになります。

### インシデント対応と危機対応の統合

日々のインシデントや危機イベントを「英雄的奮闘」によって何とか乗り切れることは、チームにとって耐え難い経験であり、二度と繰り返したくありません。インシデント チームと危機チームは、インシデントが生じたときに十分な対応ができるようプランニングしておき、プランのステップを組織のプロセスにプロアクティブに組み込んで、危機イベントを効果的かつ迅速に解決する必要があります。日々のインシデント管理や危機イベントのプランニングおよびテストに回復力向上プログラムを取り入れるには、学習および改善プロセスのサイクルがプログラムに組み込まれている必要があります。RSA Archerがあれば、これをより効果的に実行し、組織内の変更、規制の追加や変更、新規ビジネスに回復力向上プログラムを適合させることで、まさに実施するプロセスに回復力を組み込むことができます。

### 回復力向上プログラムの採用

ビジネスは流動的で変わりやすいものです。そのため、優先事項は定期的に評価する必要があります。BCMのプランニングと実施でも同じようにすべきです。ISO 22301規格では、ビジネスの優先事項と戦略的目標を順守しつつ、優先事項の変更に柔軟に適応および対応できるような、回復力のある組織を構築することを推奨しています。RSA Archerなら、業界で最も構成可能性の高いソフトウェア上に回復力向上プログラムを構築できます。現行のアプローチと分類法を維持しながら、継続性/復旧/対応プロセスを適合させたり、新しいワークフローを追加したり、新しいレポートをプログラムしたりできます。RSA Archerのプラットフォームは柔軟に設計されているため、現行の継続性/復旧ユース ケースを容易に拡張できます。カスタム コードやプロフェッショナル サービスは一切必要ありません。RSA Archer Business Resiliency では、BCプランニングの国際規格であるISO 22301に適合する標準準拠のアプローチを使用します。

## RSA ARCHER BUSINESS RESILIENCY

RSA Archer Business Resiliencyは、ビジネス継続性と災害復旧をプランニングおよび実施するための自動化されたアプローチを提供し、進行中の活動を危機的状況においても保護するための迅速な対応を可能にします。RSA Archerがあれば、ビジネス プロセスとその基盤となるテクノロジーの重要度を評価し、プランのテストと承認のための自動化されたワークフローを活用してビジネス継続性と災害復旧の詳細なプランを作成できます。主要なダッシュボードとレポートが、経営幹部に見える形で提供されます。これにより経営幹部は、継続性リスクについてのより正しい認識、予算要件に関するインサイト、危機が発生した場合に堅固な回復力向上プログラムが実施されるという一定レベルの確信が得られます。

RSA Archer Business Resiliencyには次のオプションが用意されています。これらのオプションを使用すると、固有のビジネス ニーズを満たすいくつかのユース ケースを活用したり、ビジネス回復力の成熟に向けた進捗状況を確認したりできます。

RSA Archerにより、DZ Bankでは、ビジネス継続性プランの策定に要する時間を3か月から数分に短縮すると同時に、わずか数回クリックするだけの簡単な操作で緊急を要するプロセスを指定できるようになった。

ビジネス継続性/危機管理担当グローバル  
責任者  
DZ Bank

## 事業影響度分析

いずれの組織も、ビジネス プロセスの重要度を評価するには、ビジネス インパクト分析を作成する必要があります。RSA® Archer® Business Impact Analysisは、ビジネス プロセスの重要度を特定し、それに応じてビジネス プロセスを優先順位付けして復旧プランニングおよび回復基準策定に役立てられるように設計されています。キャンペーン機能を使用すれば、一連の製品およびサービスをサポートするビジネス プロセスや、ビジネス ユニットなど特定の組織に適合したビジネス プロセスにまたがって、BIA(ビジネス インパクト分析)の更新を促進できます。ユース ケースは、組み込みの承認/モニタリング/通知/レポート機能を使用し、ビジネス プロセス オーナーを通じて更新を促進するための、すぐに利用可能なワークフローを提供します。情報を組織内の相互に依存したチームと共有し、ビジネス継続性チーム、IT災害復旧チーム、危機チームの全メンバーにプランニングおよび復旧の優先事項に関する共通の認識を持たせることができます。

## インシデント管理

RSA Archer Incident Managementは、サイバー攻撃、倫理違反、物理インシデントなどのイベントについてのレポートと分類をするための、ケース管理およびインシデント対応ソリューションです。インシデントの重要度を迅速に評価し、適切な対応手順を決定して、ビジネス インパクトや規制要件などの要因に基づいて対応チーム メンバーを割り当てることができます。Incident Managementには、コスト、関連インシデント、損失、復旧をトラッキングし、レポートするためのダッシュボードも用意されています。

## Business Continuity & IT Disaster Recovery Planning

RSA Archer Business Continuity & IT Disaster Recovery Planningは、ビジネス継続性/IT災害復旧のプランニングおよび実施のための、整合性と一貫性のある自動化されたアプローチを提供し、進行中の活動を危機的状況においても保護するための迅速な対応を可能にします。

## レジリエンス管理

RSA Archer Resiliency Managementは、進行中の活動を危機的状況においても保護するための迅速な対応と大量伝達に役立つ、整合性と一貫性のある自動化されたアプローチを提供します。RSA Archerなら、ビジネス継続性と災害復旧の管理や、実行中のプランと組織の危機チームの活動との間の調整による危機イベントの全体的な管理を可能にします。また、リスク評価と他のGRC情報との融合や、ビジネス継続性プラン、IT災害復旧プラン、危機プランのテスト プロセスを自動化することで一貫性のある危機対応を実現し、リスクを最小限に抑えることも実現します。

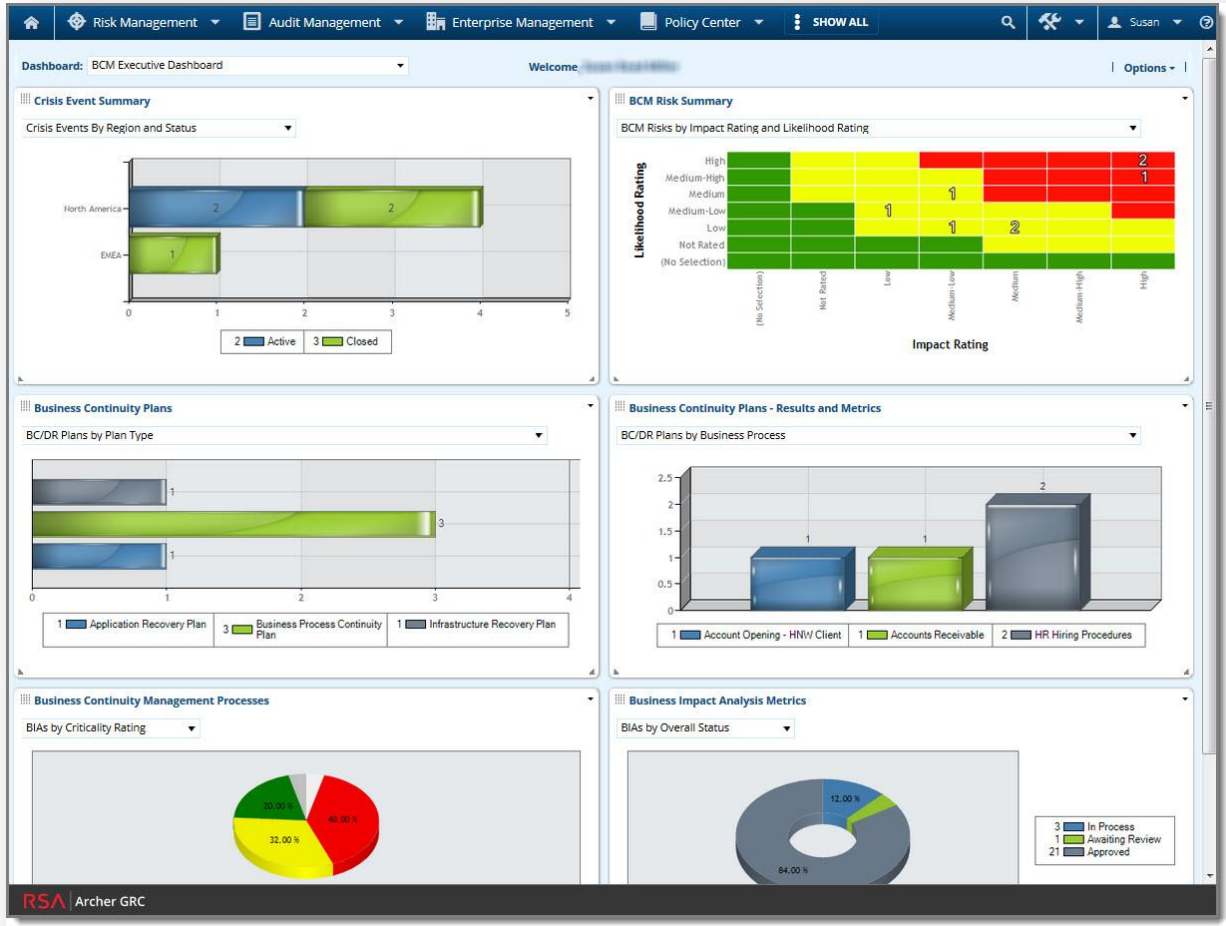
BCMソリューションに必要な機能を特定して一覧にし、既存のソリューションおよびRSA Archerとそれぞれ照らし合わせて1つずつ比較していったところ、RSA Archerが圧倒的に勝っていることが分かった。RSA Archerでは、ベンダー連絡先リストの追加、サポートドキュメントへのアクセス、プランの責任者の任命と承認権限の割り当てなど、既存のプラットフォームでは十分にまたはまったくサポートされていなかった多数の機能を利用できる。

Equifaxは、このソリューションを実装して以来、実に多くのメリットを享受している。たとえば、運用コストは3年間で推定3万6,000ドル削減され、Equifaxのエンタープライズ リスク管理目標との完全な相乗効果も実現している。データの相互交換が可能になったため、複数の組織で同じデータセットを活用でき、また、BC/DRの成熟度が大幅に高まってBC/DRの測定と反復が可能になっている。

ビジネス継続性担当グローバル マネージャー  
Equifax

## まとめ

ビジネス回復力のための整合性のあるアプローチがなければ、組織は重要なビジネス プロセスまたはIT インフラストラクチャを持続できない場合や、システム停止後に迅速に復旧できない場合に、大きな損失を被る可能性があります。RSA Archer Business Resiliencyは、リアクティブなビジネス継続性/復旧目標から、チームがプロアクティブな態勢でシステム停止がビジネスに及ぼす影響を軽減できるまでに、組織が成熟するのに役立つ回復性主導アプローチを提供します。RSA Archerがあれば、ビジネス回復チームの効率性を変革して重要な業務を保護することができます。



EMC<sup>2</sup>, EMC, EMCのロゴ, RSA, RSAのロゴ, Archerは、米国およびその他の国におけるEMC Corporationの登録商標または商標です。VMwareは、米国およびその他の地域におけるVMware, Inc.の登録商標または商標です。Copyright © 2016 EMC Corporation. All rights reserved. Published in the USA. 4/16ソリューション概要H13886.2-J

RSAは、この資料に記載される情報が、発行日時点で正確であるとみなしています。この情報は予告なく変更されることがあります。

**RSA**